

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 19 日現在

機関番号：53203

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：平成 20 年度 ~ 平成 23 年度

課題番号：20730184

研究課題名 (和文)

中国の財政制度と経済成長

研究課題名 (英文)

Fiscal Institutions and Economic Growth in China

研究代表者

内田 秀昭 (UCHIDA HIDEAKI)

富山高等専門学校・国際ビジネス学科・助教

研究者番号：20452724

研究分野：経済成長理論

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：経済成長、中国経済、財政制度、経済政策

1. 研究計画の概要

制度が経済成長に与える効果を正しく推定するには、同時方程式の形でモデルを定式化し、分析を行う必要がある。その際、推定に用いられる説明変数が、直接に一人当たり GDP の水準に影響を与えるのか、制度への効果を通じて一人当たり GDP 水準に影響を与えるのかを明示的に区別する必要がある。

本研究では、制度の内生性を考慮した分析を計画している。そのために、まず研究期間の前半では、先行研究のサーベイによってそこで用いられている推定式を精査し、それらの文献で用いられている入手可能なデータを調べる必要がある。後半では、モデルを設定し、実証的な研究を試みる。さらに、そこから得られた結果が十分な説明力を持たない場合には、関連する理論研究やフィールド・ワークによって得られた情報をヒントにさらに精緻なモデルの設定を考えている。

2. 研究の進捗状況

これまでに、先行研究のサーベイ、原型となる推定式の定式化、そのモデルを利用しての実証分析を行い、またそれらの分析では十分にとらえることができない社会的な事象についての文献調査および他の研究者との議論を行った。データの利用においては、まだ十分に整備されていなかった中国統計年鑑の過去のデータを利用可能な範囲で遡って分析に使った。豊富とはいえないまでも分析を行うためのサンプル数の確保はすることができた。そこで得られた分析結果を基準に、さらなる文献調査により民間部門の活用や経済特区の設定など市場経済化に向けた中国政府の経済政策

や取り組みを理解することができ、今後はこのような質的な要素をとらえるモデルの構築が必要であることを確認した。また、研究会において他の研究者との議論から中国における地方分権化に対する国民の反応や既に経済発展を遂げている西洋諸国や東アジアの国々と比べて、中国経済の特異性を知ることができた。特に、予算配分において、豊かな地域には更なる経済的な集積を実現するために多くの予算が配分され、未発展の地域には産業集積による経済発展の可能性が低いためあまり多くの予算が配分されないという事実を知ることができた。このような事実は経済発展が予算制度を通じて予算配分に影響を与えるというさらに複雑な問題を示唆しており、以後の研究において有益な情報であった。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

20 年度～22 年度まで在籍していた所属機関には文献およびデータ不足がしていたため、一からそれらを集めなければならなかった。また、他の業務で本課題に取り組む時間が当初予定よりも限られたために目標エフォートを達成することができなかった。

4. 今後の研究の推進方策

平成 23 年度の研究では、これまでの推定では十分に分析に取り入れることができなかった中国経済の特徴となる要因を推定式に導入することでより精度の高い実証結果を得ることを計画し

ている。平成 23 年度はこれまでの研究で得られた資料を論文としてまとめ、学会発表など研究成果をまとめ、それを公表する機会をできるだけ多く持つことを目標にしている。より具体的には、平成 23 年度初旬に実証分析を行い、前半までに論文としてまとめ、後半からは学会報告とそこでの議論に基づいてさらに分析の質を向上させることを計画している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 内田秀昭、中国における財政支出と経済成長—パネルデータを用いた実証分析—、九州経済学会、九州国際大学、2009 年 12 月 5 日
- ② 内田秀昭、知的財産権と協調行動、日本応用経済学会、金沢大学、2008 年 11 月 23 日
- ③ 内田秀昭、知的財産制度の変化とビッグ・プッシュ、日本 OR 学会「OR と実践」研究部会、石川県文教会館、2008 年 5 月 24 日